

実践例「学校・学級経営の深化・充実」

「課題3 地域に根差し、家庭や地域と連携して豊かな心を育む教育活動の創造と推進」

I 学校名 足寄町立芽登小学校【十勝管内】

II 学校の概要

開校110周年を迎えた本校は、大正2年(1913年)の開校以来、地域に根ざした教育活動を推進している。保護者の大部分が酪農・畜産業を営んでおり、児童の大部分は遠距離通学のため、スクールバスを利用している。近年、道外から就農する家庭が定着し、地域の活性化の一翼を担っている。保護者は、教育に大きな関心をもち、協力的である。

全校児童は27名、1年、2年は単式学級、3・4年、5・6年は複式学級、特別支援学級3学級の7学級編制である。

多様化した児童・保護者・地域からのニーズを受け止め、学校への期待に応えるため、これまで以上に地域や外部の教育資源を最大限に活用し、様々な課題の解決を目指している。

児童は、学習・生活規律がしっかり身に付いており、学びの土台は十分備わっている。今年度は、個々の確実な学力の定着に向け、積極性や粘り強さ、自らの創意工夫・発想の伸長などを伴った確かな実践力の育成を重点としている。



III 実践事例

1 学校段階等間の接続

(1) 小・中連携

足寄町では、「笑顔がつながる学び合いのまち」の基本理念の下、足寄町学校教育振興会、足寄町生涯学習研究所を中心に、町全体で子どもたちの学力向上に努めている。

①小中学校共通の学習規律の指導

- ・小中学校共通の学習規律に関する掲示物
「姿勢」「鉛筆の持ち方」「授業の約束」

②中学校体験会(町内小6生対象)

- ・令和4年12月5日(月) 足寄中学校

③出前授業(足寄小6年、複式校5・6年生対象)

- ・令和5年2月実施予定

④教職員研修(2年計画:ICT活用研修会)

- ・令和4年1月13日(木) オンライン研修「リモート授業及びリモート学習の実際」
- ・令和4年8月18日(木) 集合型研修「Teams活用レベルアップ講座」(町内小中学校全教職員対象)



中学校体験会(会場:足寄中学校)



Teams活用レベルアップ講座(会場:足寄中学校)

足寄町生涯学習研究所員・協力員、町内教職員有志が講師となり、実技研修会を開催した。事前アンケートをもとに、ニーズに合わせて3グループに分かれ、各々のICT活用指導力の向上を目指した。本校からも、2名の教諭が講師として参加した。事後、授業のみならず、各種事業においてもMicrosoft Teamsの活用が推進されている。

(2) 保・小連携

行事の他、生活科の授業の一環として保育所と交流学習を行っている。また、教職員による日常的な情報共有や保育所見学等を行うことにより、入学後の指導に役立っている。行事を通して保育所の保護者との交流も図られ、PTA活動のスムーズな移行へとつながっている。

(3) 小・中・高連携

足寄町内の公立高校への進学率が約7割という現状から、児童生徒が12年間通して「わかる喜び」「できるようになることの喜び」を体感できる教育活動の実現を目指している。今年度から、町立小中学校の校長会議、教頭会議に道立高等学校の校長、教頭もそれぞれ出席し、研修や情報交流を行う等、連携を深めている。

2 家庭・地域との連携

(1) 教科等の学習〔地域住民、保護者との連携〕

保護者は、教育活動に大変協力的であり、行事の運営の他、講師として教科等の学習にも協力いただいている。

- ・総合的な学習の時間「ふるさと学習」
- ・キャリア教育



(2) 体力向上〔足寄町教育委員会生涯学習室との連携〕

本校教諭による日常の体力向上の取組「マッスルチャレンジ」の他、体育の授業等への講師派遣により、より効果的な指導を行うことで、技術の向上と体力向上を図っている。

- ・新体力テスト
- ・水泳学習
- ・スケート学習
- ・スキー学習



(3) 防災教育〔足寄町役場、足寄町教育委員会教育総務室、関係機関との連携〕

「自らの命を守る」意識の向上を目指し、関係機関の指導の下、年3回の避難訓練（火災・地震・不審者）、交通安全教室、防災教室を実施している。



「1日防災学校」は、足寄町役場、陸上自衛隊、警察署、消防署、ネイパル足寄の協力を得ることができた。「自助・共助・公助」「訓練」の大切さを学ぶよい機会となった。保護者を対象とした“児童の引渡し訓練”では、児童待機場所の設置、マチコミメールでの通知、引渡しカードの記入等、児童・保護者の動きを想定した教職員の配置を確認、見直しすることができ、学校安全計画・危機管理マニュアルの改善につながった。

IV 今後に向けて

感染症対策のため、学校行事の規模縮小等による教育活動も3年目となった。人とのふれあい、体験活動等が制限される中、デジタル化が急速に進み、1人1台端末を活用して学習するスタイルが定着しつつある。今年度は、町内複式校集合学習・町内小中学校交流学习等を予定通り実施することができた。また、外部講師による授業や教職員の集合型研修の実施等も可能となり、実体験を通して学ぶことの価値を再認識した。

ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成に向け、「リアルな体験」機会を充実させるためにも、地域・家庭とのより深い連携により、子どもたちの笑顔があふれる教育活動の推進と学校経営の充実に努める。